



⑥閉じ込められた人を探す

生体臭がしたら吠えて教えるように訓練する。この際、発見できることがいかに素晴らしくうれしいことや、また、発見してもらった人にとってうれしいことを教える。その達成感が災害救助犬のモチベーションとなる。



⑤指さされた方向に進む

犬は訓練することにより指差した方向に進むことができるようになる。指差しの方向に従うことにより指導手から離れた場所での作業が可能になる。



①不安定な足場を歩く

不安定な足場を犬は避ける習性があるが、慌てなければ通過できることを教える。はしごは後脚が見えないので慣れていないと上手く渡れない。

②狭い場所をくぐり抜ける

狭い場所をくぐり抜け、その先で、遠方からの指導手の指示通り動けるよう教える。



③抱きかかえられる

移動の際、知らない人に抱きかかえられる場合もあり、その際、素直に抱きかかえられていられるよう教える。



④休息をとる

慣れない場所で、知らない人や重機などから出る騒音が聞こえたりする場所でも、休息とれるよう訓練する。(指導手の臭いのする荷物などを置いておくことで安心する場合もある)

風景訓練

危険が伴う現場で安全に活動するために

災害救助犬は、救助活動ができるようになるためにどんな訓練をしているのでしょうか。大島ドッグトレーニンングセンターでの訓練の様子を見せていただきました。

三犬図鑑



【ベルジアン・シェパード・ドッグ・マリノア】

災害救助犬は特に犬種の指定はないが、注目なのがベルジアン・マリノア。単にマリノアと呼ばれることが多い。ベルギー原産の牧羊犬。ショードッグではなく、実用犬として世界中で飼育されている。ショート・コート。毛色はフォーンでブラックマスク。しつけの飲み込みがよく、状況判断力・身体能力が高い。災害救助犬に大変向いている。

(写真は犬島さん所有のセン号)

犬の特性生かし、より多くの人命救助に

『血のにじむような努力をして災害救助犬になる』と思われる方もいるようですが、犬たちは『発見できてうれしい！』『大好きな人に褒められてうれしい』という達成感で動いています。乗り越えなければならぬことがあるということも教えますが、決して血のにじむようなことを犬に無理強いしてはいません』と大島さんが最後に語ってくれました。個々の犬の能力や個性を判断し、その特性を最大限生かすよう訓練をする訓練士の方々の血のにじむような努力に頭が下がります。生存率は発災後72時間で大幅にさがることを見ると、より多くの方の人命を救うためには、国内で1頭でも多く災害救助犬を育成されることの必要性を感じました。



訓練の様子を再現してくださった、訓練士の藤野亜矢さんとユウリ号(ブリタニー・スパニエル、♀、6歳)